

栃木県第3次気候変動影響評価報告書 (概要版)

R8 (2026) 年3月
環境森林部気候変動対策課

目的

令和8(2026)年2月16日に気候変動適応法(平成30年法律第50号)に基づき公表された「第3次気候変動影響評価報告書」をはじめとする最新の科学的知見を踏まえ、栃木県の実情に即した気候変動影響、適応の現状及び将来予測に関する情報を改めて収集・分析し、栃木県第2次気候影響評価の見直しを実施する。

実施内容

① 過去の気象観測データの収集・整理

気象庁の観測データを基に、県内の気象観測情報の最新値を収集、気候変動の現状(長期変化傾向)を整理

② 将来気候の予測・見える化

県内の将来気候について、時間的・空間的に詳細な解析を実施し、予測マップを作成

③ 県内における気候変動影響評価の実施(栃木県第2次気候影響評価の見直し)

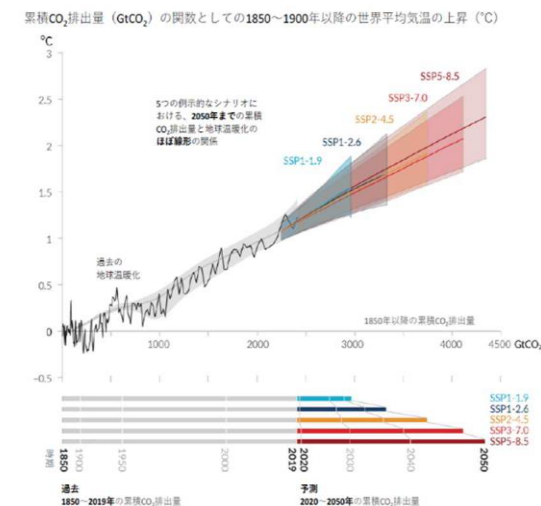
文献調査、実態調査により7分野59項目について本県における現在及び将来の影響を評価



豪雨による市街地の浸水被害



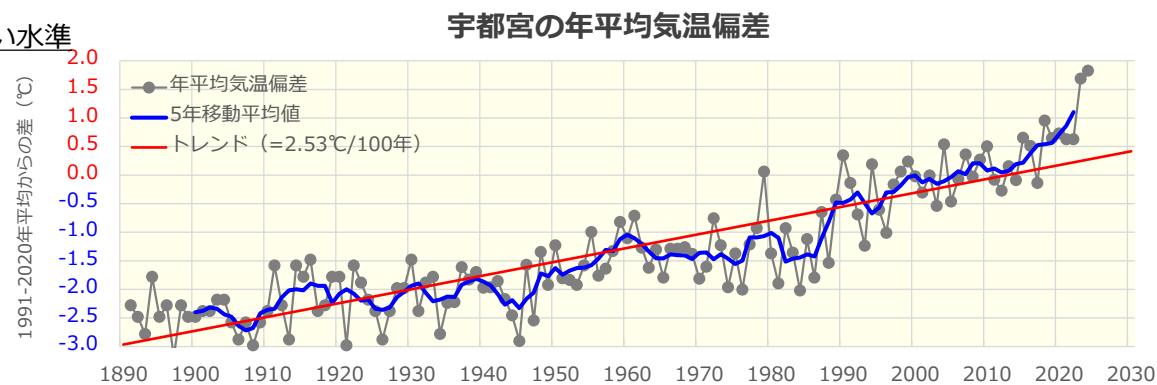
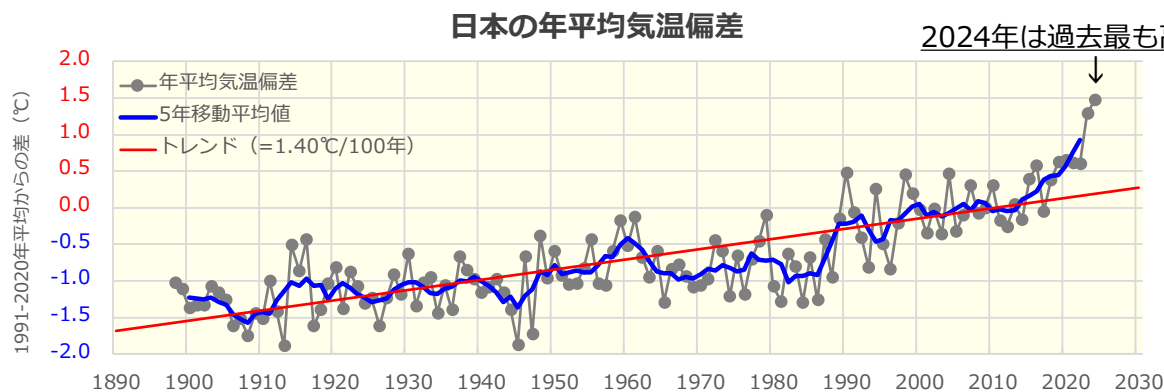
農作物(水稻や梨等)の品質低下



二酸化炭素の累積排出量と気温上昇の関係

① 過去の気象観測データの収集・整理

- 年平均気温の上昇に伴い、真夏日や猛暑日などは増加、冬日や真冬日は減少
- 年降水量に長期変化傾向は見られないが、大雨や短時間強雨の頻度は増加する一方、降水日数は減少



項目	1991~2020年 平年値 (宇都宮)	気候変動の状況	
		日本 ※1	栃木県 (宇都宮) ※2
年平均気温	14.3°C	(100年当たり) 約1.40°C 上昇	(100年当たり) 約2.53°C 上昇
真夏日日数	49.6日	(100年当たり) 約9.1日 増加	(80年当たり) 約34.7日 増加
猛暑日日数	5.9日	(100年当たり) 約2.6日 増加	(80年当たり) 約11.9日 増加
冬日日数	72.9日	(100年当たり) 約18.0日 減少	(80年当たり) 約46.8日 減少
年降水量	1,524.7mm	長期変化傾向は見られず	長期変化傾向は見られず

※1 都市化の影響を受けない観測地点の平均値

※2 都市化の局地的な気温の上昇が加わっている

② 将来気候の予測・見える化

年間の平均気温

※1：メッシュ図及び平均値±標準偏差はNIES2020データによるもの

※2：NIES2019データによる場合

- 日平均気温は、2100年には県全体で約4.5~5.5℃上昇する。
- 県央～県南部では、18℃を超える。

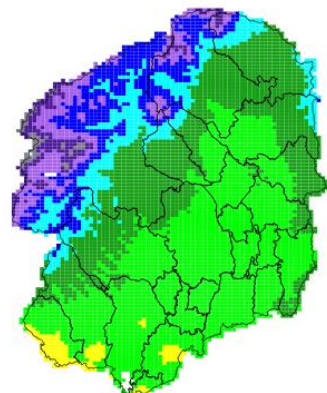
基準（20世紀末）
（1980-1999年の平均）

2030年
（2020-2040年の平均）

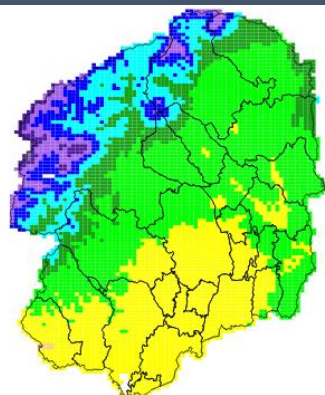
2040年
（2030-2050年の平均）

2050年
（2040-2060年の平均）

2100年
（2080-2100年の平均）

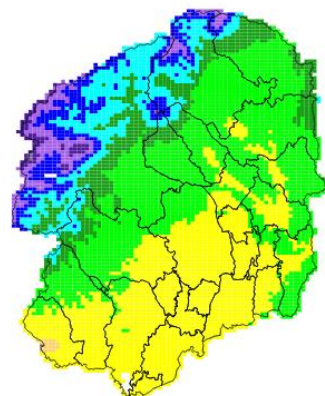


全メッシュ※1（N=6187）
平均値±標準偏差
10.7 ±2.8℃



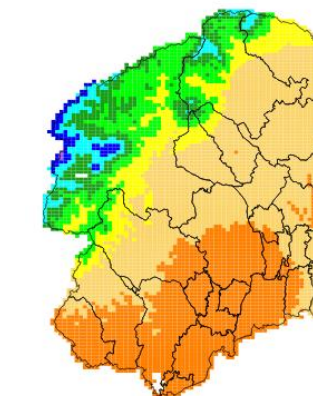
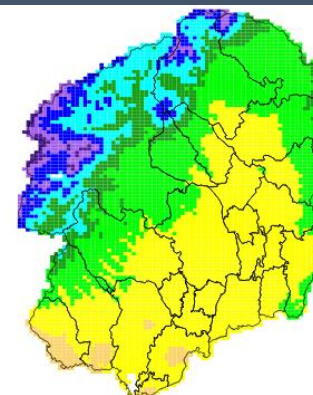
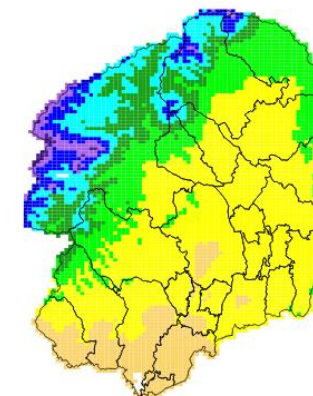
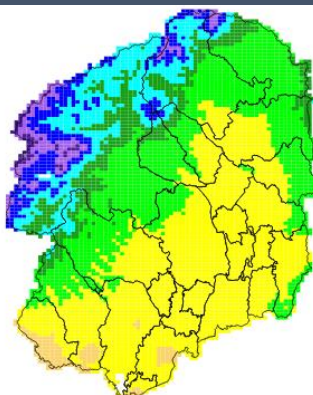
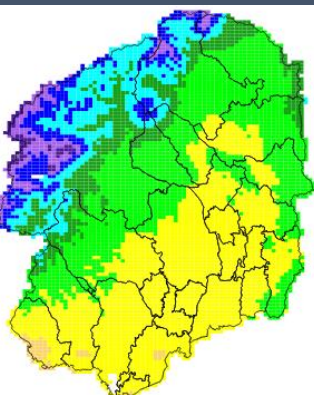
SSP 1-2.6（平均気温の上昇を、産業革命前と比べて2℃より低く保てた場合）

12.8 ±2.8℃

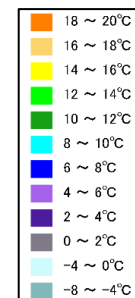


SSP 5-8.5（追加的な緩和策を講じない場合）

16.2 ±2.8℃



基準比
+2.1℃



基準比
+4.5※2
~5.5℃

② 将来気候の予測・見える化

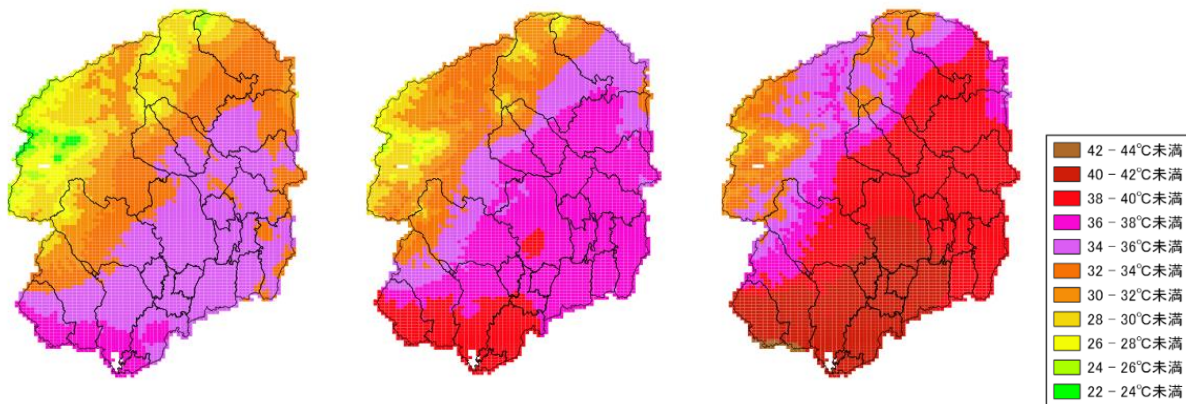
日最高気温

- SSP5-8.5の場合、日最高気温は、2100年には県全体で約5.4℃上昇する。
- 県央～県南部では、最高気温が42℃を超える。

基準（20世紀末）

2050年

2100年



全メッシュ平均値

32.4 ±3.0℃

上昇

(SSP1-2.6) 34.3 ±3.0℃

基準比
+1.9℃

(SSP5-8.5) 37.8 ±2.9℃

基準比
+5.4℃

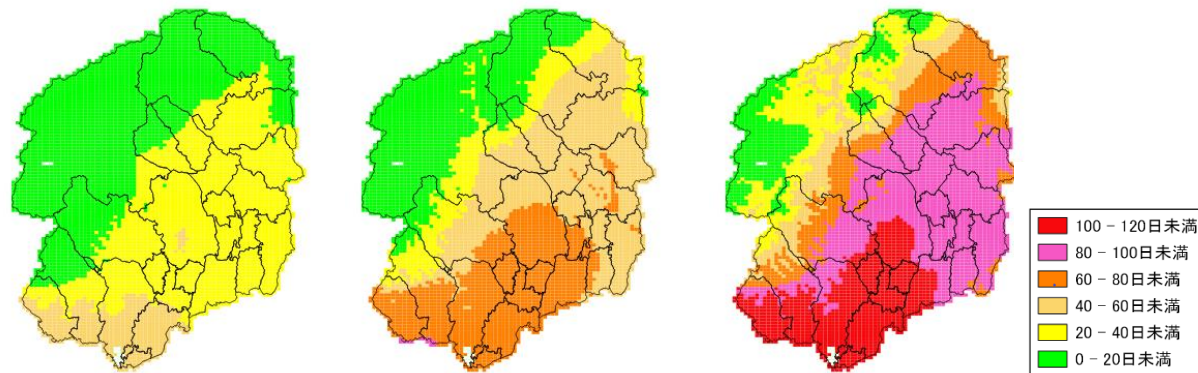
真夏日（最高気温30℃以上）の年間日数

- SSP5-8.5の場合、真夏日数は、2100年には県全体で約50日増加する。
- 県南部では、真夏日が3か月以上観測される。

基準（20世紀末）

2050年

2100年



全メッシュ平均値

19.9 ±15.2日

増加

(SSP1-2.6) 35.1 ±22.0日

基準比
+15.2日

(SSP5-8.5) 70.0 ±31.8日

基準比
+50.1日

② 将来気候の予測・見える化

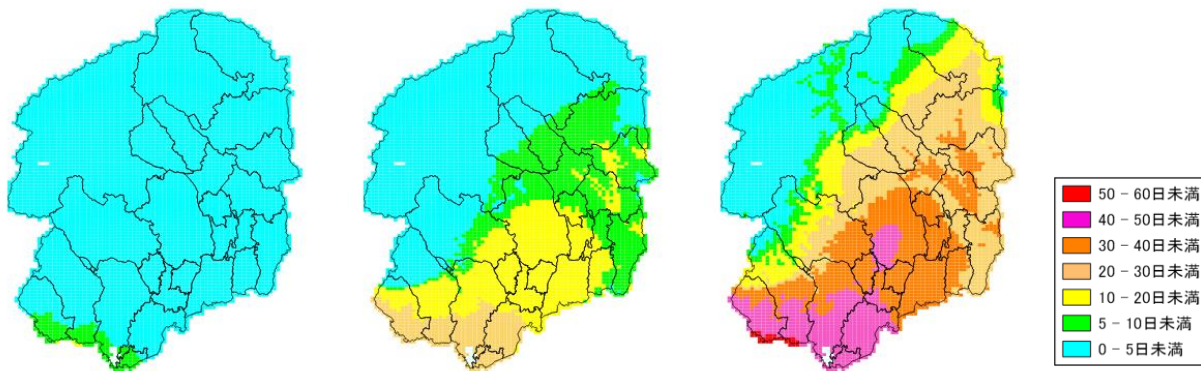
猛暑日（最高気温35℃以上）の年間日数

- SSP5-8.5の場合、**猛暑日日数は、2100年には県全体で約21日増加する。**
- 県央～県南部では、猛暑日が1ヶ月を超える。

基準（20世紀末）

2050年

2100年



全メッシュ平均値

0.7 ±1.4日

増加

(SSP1-2.6) 4.6 ±5.4日

基準比
+3.9日

(SSP5-8.5) 21.2 ±15.0日

基準比
+20.5日

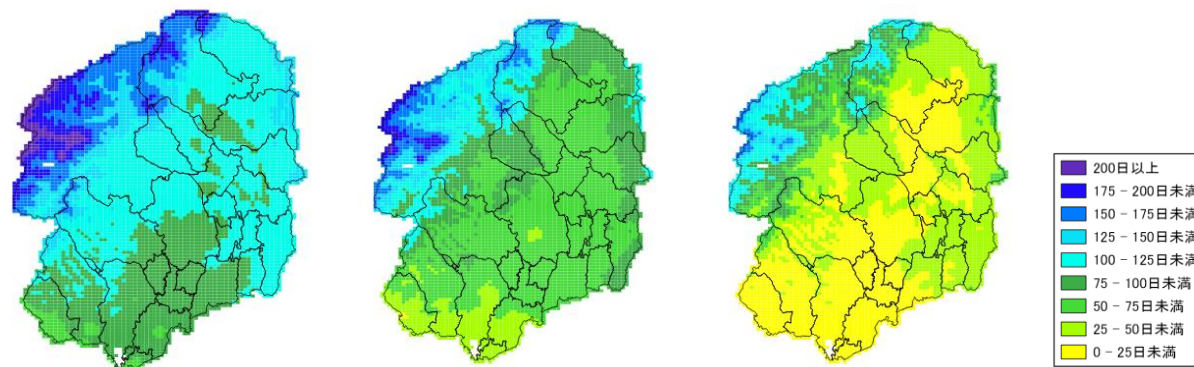
冬日（最低気温0℃未満）の年間日数

- SSP5-8.5の場合、**冬日日数は、2100年には県全体で約76日減少する。**
- 県南部では、冬日が1か月未満となる。

基準（20世紀末）

2050年

2100年



全メッシュ平均値

118.0 ±30.6日

減少

(SSP1-2.6) 92.2 ±32.5日

基準比
-25.8日

(SSP5-8.5) 42.1 ±32.9日

基準比
-75.9日

② 将来気候の予測・見える化

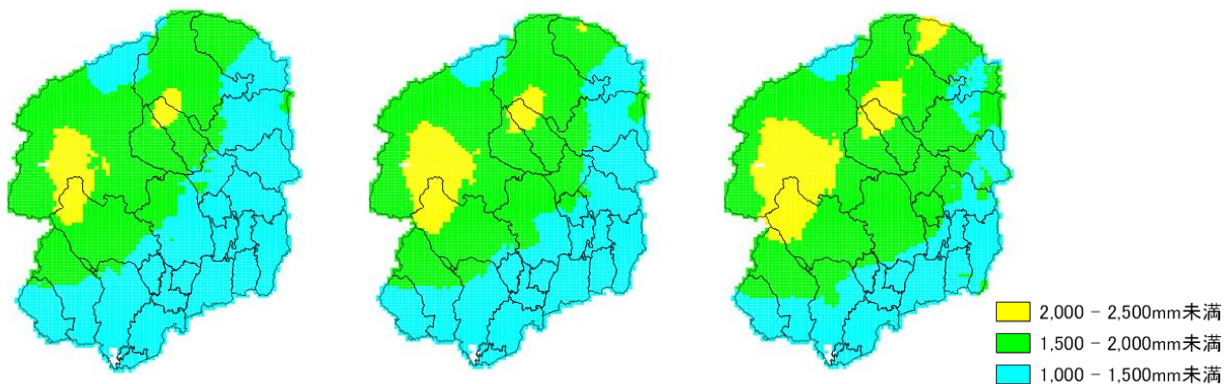
年間降水量

- SSP5-8.5の場合、**年間降水量は、2100年には県全体で約10%増加する。**
- 県西～県北部を中心に、増加傾向が見られる。

基準（20世紀末）

2050年

2100年



全メッシュ平均値

1,564 ±247mm	増加 →	(SSP1-2.6)	1,642 ±244mm	基準比 +78mm
		(SSP5-8.5)	1,690 ±253mm	基準比 +126mm

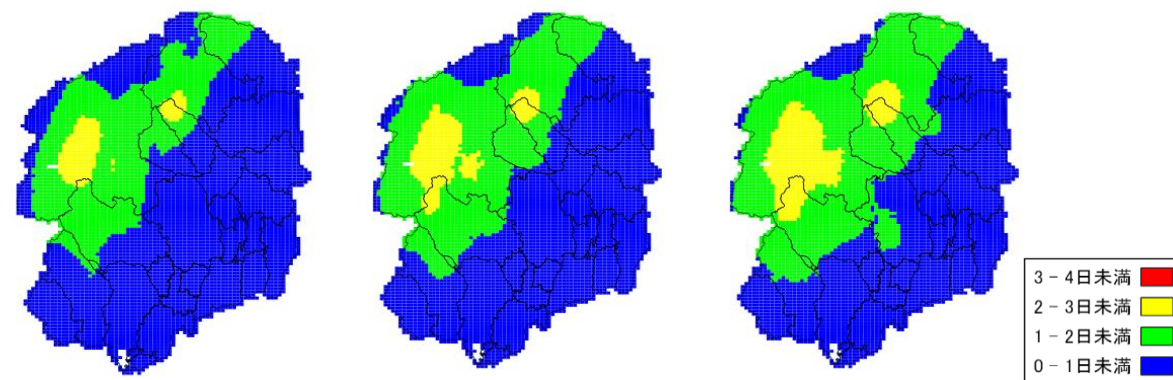
日降水量100mm以上の年間日数

- SSP5-8.5の場合、**日降水量100mm以上の日数は、2100年には県全体で約30%増加する。**
- 県西～県北部を中心に、増加傾向が見られる。

基準（20世紀末）

2050年

2100年



全メッシュ平均値

0.8 ±0.5日	増加 →	(SSP1-2.6)	0.9 ±0.5日	基準比 +0.1日
		(SSP5-8.5)	1.2 ±0.5日	基準比 +0.4日

② 将来気候の予測・見える化

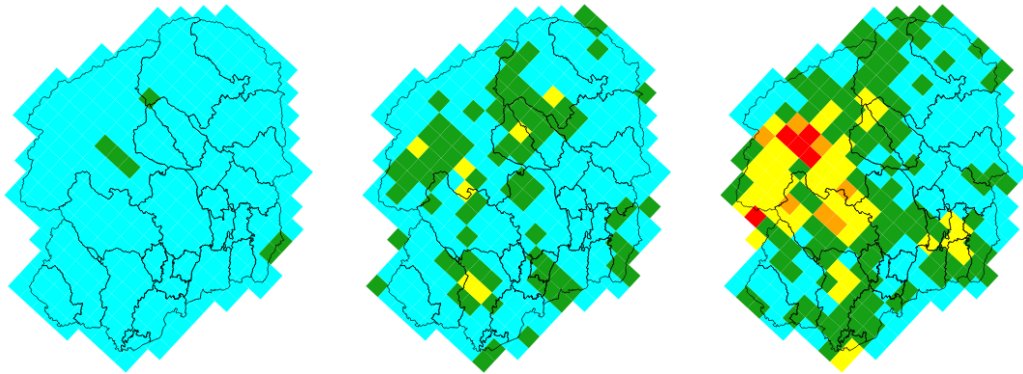
短時間強雨（50mm/h以上）の年間発生回数

- 4℃上昇（SSP5-8.5で2090年頃に相当）の場合、**短時間強雨（50mm/h以上）の発生頻度は、県全体で約50%増加**する。
- 県全域（特に高標高地域）で増加傾向が見られる。

現在気候

2℃上昇※

4℃上昇※



凡例



全メッシュ平均値

3.1 ±0.9回

増加

6.8 ±2.6回

基準比
+3.7回

※ 1 SSP5-8.5で2040年頃に相当

※ 2 SSP5-8.5で2090年頃に相当

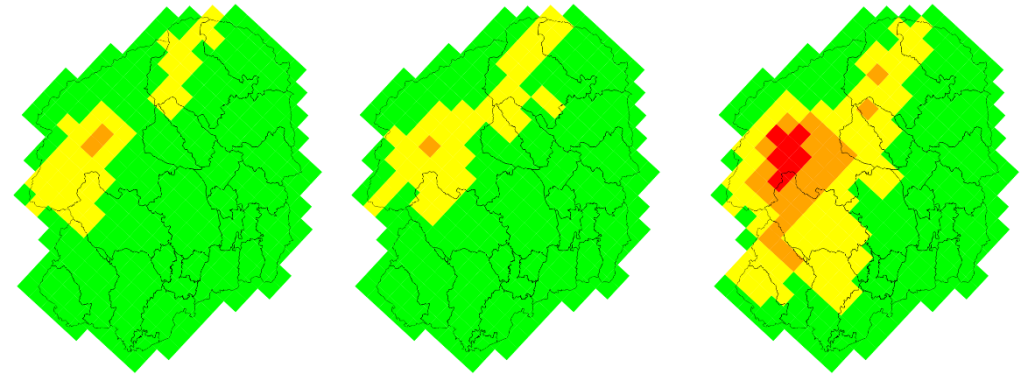
大雨（200mm/日以上）の年間発生回数

- 4℃上昇（SSP5-8.5で2090年頃に相当）の場合、**大雨（200mm/日以上）の発生頻度は、県全体で約30%増加**する。
- 県全域（特に高標高地域）で増加傾向が見られる。

現在気候

2℃上昇※

4℃上昇※



凡例



全メッシュ平均値

2.6 ±0.9回

増加

3.7 ±1.6回

基準比
+1.1回

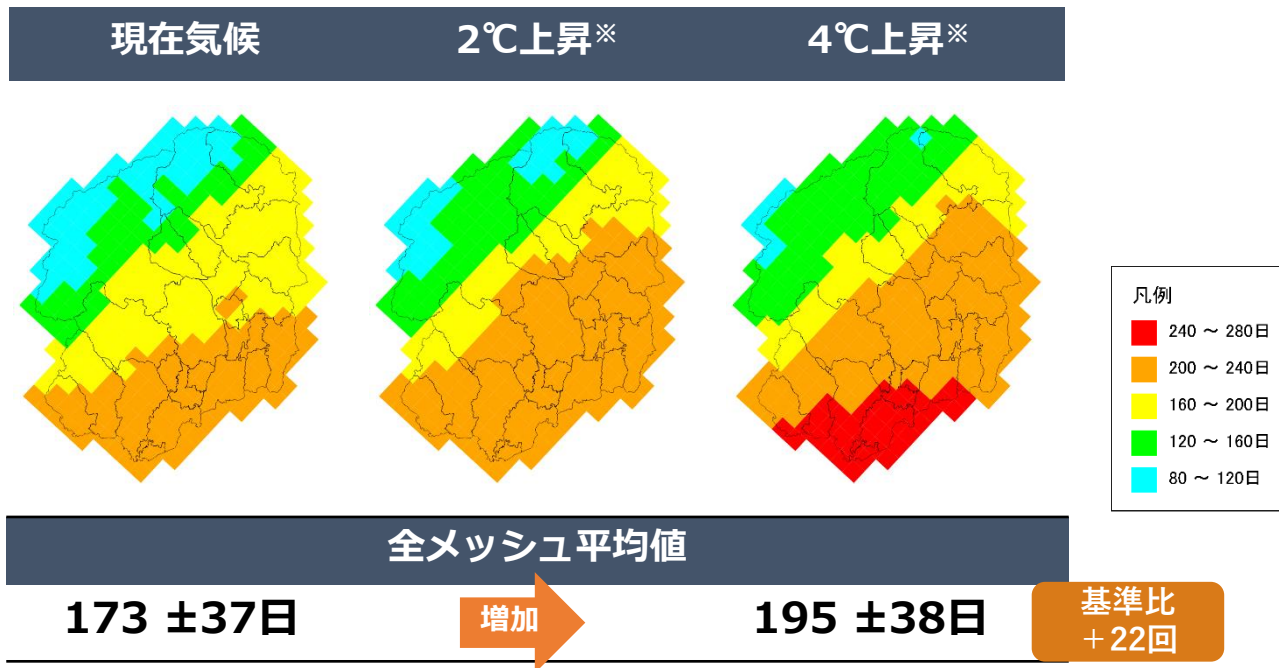
※ 1 SSP5-8.5で2040年頃に相当

※ 2 SSP5-8.5で2090年頃に相当

② 将来気候の予測・見える化

無降水日数の年間日数

- 4℃上昇（SSP5-8.5で2090年頃に相当）の場合、**無降水日数の年間日数は、県全体で約10%増加する。**
- 県全域で増加傾向が見られる。



※1 SSP5-8.5で2040年頃に相当

※2 SSP5-8.5で2090年頃に相当

③ 県内における気候変動影響評価の実施

分野	項目		国影響評価(3次)					県影響評価		県3次評価	
	大項目	小項目	全国における主な気候変動の影響	主な要因	重大性/確信度			緊急性/ 確信度	県内における主な気候変動の影響	現在の 影響	将来の 影響
					現状	1.5~2℃ 上昇時	3~4℃ 上昇時				
農業・林業・水産業	農業	水稲	品質の低下、収量の低下 斑点米カメムシ類の分布の拡大	気温	3 ***	3 ***	3 ***	3 ***	・登熟不良による胴割粒・白未熟粒の発生 ・カメムシ類による斑点米の増加	△	○
		野菜等	露地野菜 生育障害 施設野菜 着果不良 花き 発育の前進・遅延	気温	2 ***	2 **	3 **	3 ***	・露地野菜・施設野菜の品質低下 ・イチゴの花芽分化期の遅れによる収穫期の遅延	○	○
		果樹	カンキツ類 浮皮 リンゴ・ブドウ 着色不良、日焼け果 ナシ・モモ 発芽・収穫時期等の変化、果肉障害、凍霜害	気温 降水量	3 ***	3 ***	3 ***	3 ***	・ナシの開花期の前進に伴う晩霜害のリスク上昇等 ・ブドウの着色不良、モモの果肉障害	○	○
		麦・大豆・飼料作物等	麦類 凍霜害、収量変化・品質低下 大豆 収量低下 飼料作物 収量変化	気温	2 **	2 **	2 **	3 **	・麦類の生育前進化・低温障害の発生 ・トウモロコシの湿害増加・発育不全等	△	○
		畜産	肉用牛・豚 成育・肉質・分娩率低下 乳用牛 乳量・乳成分・繁殖成績低下 採卵鶏 産卵率・卵重・低下、産卵数減少 肉用鶏 成育低下	気温	3 ***	3 **	3 **	3 ***	・肉用牛・豚の成育・肉質の低下 ・乳用牛の乳量・乳成分の低下 ・家畜の生産能力、繁殖機能の低下	○	○
		病害虫・雑草	害虫 分布域拡大・北上、 発生世代数の増加 病害 発生地域の拡大 雑草 定着可能域の拡大・北上	気温	2 **	3 *	3 *	3 ***	・害虫の発生量・被害の増加のおそれ ・高温で発生しやすい病害（炭疽病等）の増加 ・防除困難な外来雑草の圃場侵入	○	○
		農業生産基盤	農地・農業用施設への被害 利水影響	降水量	3 ***	3 ***	3 ***	3 ***	・短期間強雨の増大や洪水等による農地被害 ・農業用水の取水制限	○	○
林業	木材生産 (人工林等)	水ストレスの増大によるスギ林衰退 マツ材線虫病のリスク・分布拡大	気温 降水量	2 **	2 **	3 **	3 **	-	-	-	
	特用林産物 (きのこ類等)	菌による被害 きのこ発生量の減少	気温	2 **	2 **	2 *	3 ***	-	-	-	
水産業	回遊性魚介類 (魚類等の生態)	天然アユの遡上数減少、 遡上時期の早まり	気温	2 **	2 **	3 **	3 **	・高水温期におけるアユの病死	○	○	
	増養殖等	高水温によるへい死 漁獲量減少	水温	3 **	3 **	3 **	3 **	・洪水等による河床環境の変化、放流魚の生育環境の喪失 ・養殖場における寄生虫症の発生	○	○	

国の影響評価

重大性
 3：特に重大な影響が認められる
 2：重大な影響が認められる
 1：影響が認められる
 -：現状では評価できない

緊急性 **確信度**
 3：特に高い ***：特に高い
 2：高い **：高い
 1：高くない *：高くない
 -：評価できない -：評価できない

県の影響評価

○：大きい
 △：大きいとはえない
 -：ない、或いは、わからない

③ 県内における気候変動影響評価の実施

分野	項目		国影響評価(3次)					県影響評価		県3次評価	
	大項目	小項目	全国における主な気候変動の影響	主要要因	重大性/確信度			緊急性/ 確信度	県内における主な気候変動の影響	現在の 影響	将来の 影響
					現状	1.5~2℃ 上昇時	3~4℃ 上昇時				
水環境・水資源	水環境	湖沼・ダム湖	水温上昇に伴う水質悪化・富栄養化 異臭味の発生	気温	1 **	2 **	2 **	2 **	—	—	○
		河川	水温上昇に伴う水質悪化 浮遊砂量増加	気温	1 **	1 **	1 **	1 **	・土砂流出量の増加	—	○
	水資源	水供給 (地表水)	渇水の深刻化による減断水の発生 需要期の水不足	降水量 降雪量	2 ***	2 ***	3 ***	3 ***	・可能発電電力量の減少 ・農業用水の取水制限	○	○
		水供給 (地下水)	地下水位の変動	降水量	1 *	2 **	2 **	3 **	・過剰な地下水摂取による地盤沈下のおそれ	—	○
		水需要	需要の増加	気温	1 *	2 **	2 **	2 **	・農業用水の需要増	△	△

国の影響評価

重大性

- 3：特に重大な影響が認められる
- 2：重大な影響が認められる
- 1：影響が認められる
- ：現状では評価できない

緊急性

確信度

- 3：特に高い ***：特に高い
- 2：高い **：高い
- 1：高くない *：高くない
- ：評価できない -：評価できない

県の影響評価

- ：大きい
- △：大きいとはえない
- ：ない、或いは、わからない

③ 県内における気候変動影響評価の実施

分野	項目		国影響評価(3次)					県影響評価		県3次評価	
	大項目	小項目	全国における主な気候変動の影響	主な要因	重大性/確信度			緊急性/ 確信度	県内における主な気候変動の影響	現在の 影響	将来の 影響
					現状	1.5~2℃ 上昇時	3~4℃ 上昇時				
自然生態系	陸域生態系	高山帯・亜高山帯	植生の分布の変化や縮小 種構成の変化 高山帯へのニホンジカなどの侵入	気温 降雪量	3 ***	3 **	3 **	3 ***	・生息適地減少による高山・亜高山植生の衰退等のおそれ	—	○
		自然林・二次林	冷温帯林の分布適域の変化・減少	気温	1 ***	1 ***	3 ***	2 ***	—	—	—
		里地・里山生態系	構成二次林種の分布適域の縮小 タケの分布域の拡大	気温	1 **	1 **	2 **	2 **	・南方系のチョウ類、土壤動物の増加	△	○
		人工林	水ストレスの増大によるスギ林衰退	気温 降水量	1 *	1 **	2 **	2 **	—	—	—
		野生鳥獣による影響	生息適地の拡大 植生への食害・剥皮被害等 ヤマビルの分布拡大	気温 降雪量	2 ***	3 **	3 **	3 ***	・シカ・イノシシの個体数増加、越冬地の拡大 ・イノシシの掘り起こしによる植生かく乱 ・シカによる下層植生の衰退 ・ヤマビルの分布拡大	○	○
	淡水生態系	湖沼	種構成の変化 底生生物への影響	気温	3 **	3 *	3 *	3 **	—	—	△
		河川	生育・生息適地や個体数の変化 冷水魚の生息域の縮小	気温	3 **	3 **	3 **	3 **	・濁水に伴う水温上昇によるサクラマス等の死亡 ・イワナ・ヤマメ等の生息域縮小・分断のおそれ ・流量減少に伴う遡上、繁殖等を行う生物相の変化	○	○
		湿原	湿原の乾燥化 岸辺水生無脊椎動物の個体数の低下	降水量 降雪量	3 *	3 *	3 *	3 *	—	—	—
	自然災害	洪水(河川氾濫、内水氾濫)	水害リスク、氾濫発生確率の増加	降水量	3 ***	3 ***	3 ***	3 ***	・局所的な強雨による河川の氾濫 ・マンホールからの汚水溢水及び処理場処理能力の超過 ・内水氾濫による浸水被害の発生	○	○
土石流・地すべり等		土砂災害・深層崩壊・斜面崩壊の増加	降水量	3 ***	3 ***	3 ***	3 ***	・土砂災害等の発生 ・斜面崩壊・土石流等に起因する洪水氾濫災害の発生のおそれ	○	○	
その他		強風等(強風等による風害)	強風・強い台風の増加 竜巻が発生する可能性の増加	気温	3 **	3 **	3 **	3 **	・倒木の発生による通行止めの頻発化	○	○
		雪害	降積雪の変化	降雪量	-	-	-	-	—	—	—

国の影響評価

重大性

- 3：特に重大な影響が認められる
- 2：重大な影響が認められる
- 1：影響が認められる
- ：現状では評価できない

緊急性

- 3：特に高い
- 2：高い
- 1：高くない
- ：評価できない

確信度

- ***：特に高い
- **：高い
- *：高くない
- ：評価できない

県の影響評価

- ：大きい
- △：大きいとはえない
- ：ない、或いは、わからない

③ 県内における気候変動影響評価の実施

分野	項目		国影響評価(3次)					県影響評価		県3次評価	
	大項目	小項目	全国における主な気候変動の影響	主な要因	重大性/確信度			緊急性/ 確信度	県内における主な気候変動の影響	現在の 影響	将来の 影響
					現状	1.5~2℃ 上昇時	3~4℃ 上昇時				
健康	暑熱(熱中等等)	熱中症搬送者・死者の増加 熱中症の発生時期の変化(長期化) 熱中症の発生場所の多様化	気温	3 ***	3 ***	3 ***	3 ***	・熱中症発生率、搬送者数(特に高齢者)の増加	○	○	
		疾病発生・悪化、死因別死亡リスク	死亡リスクの増加 高温による臓器疾患等による死亡率、入院リスク、救急搬送の増加 屋外での運動に配慮を要する日の増加	気温	3 ***	3 **	3 **	3 ***	・教育現場における屋外での運動に配慮を要する日の増加	○	○
	節足動物媒介感染症	感染症媒介蚊の生息域拡大、活動期間の増加 マダニにより媒介される感染症の増加、発生地域の拡大	気温	2 ***	3 ***	3 ***	3 ***	-	-	△	
	その他	温暖化と大気汚染の複合影響	汚染物質の濃度変化	気温	2 **	2 **	2 **	3 **	・光化学スモッグ発令日の増加のおそれ	-	△
		メンタルヘルスへの影響	自然災害の増加によるメンタルヘルスの悪化	-	3 **	3 **	3 **	3 **	-	-	-
		自然災害に起因する健康影響	環境の変化やサポートの欠如による、高齢者の認知機能低下や高齢者施設等への入所リスクの増加 基礎疾患有病患者に対する医療提供体制への影響	-	2 **	3 **	3 **	3 ***	・生活の不活発化を原因とする心身の機能の低下のおそれ	△	○
冬季の健康影響		低温による死亡者数・死亡率の増加	気温	1 **	1 **	1 **	1 **	-	-	-	
その他の健康影響	スギ花粉症患者の再診の増加、治療日数の長期化	気温	2 **	2 **	2 **	2 **	-	-	-		

国の影響評価

重大性
 3: 特に重大な影響が認められる
 2: 重大な影響が認められる
 1: 影響が認められる
 -: 現状では評価できない

緊急性 **確信度**
 3: 特に高い ***: 特に高い
 2: 高い **: 高い
 1: 高くない *: 高くない
 -: 評価できない -: 評価できない

県の影響評価

○: 大きい
 △: 大きいとはえない
 -: ない、或いは、わからない

③ 県内における気候変動影響評価の実施

分野	項目		国影響評価(3次)					県影響評価		県3次評価	
	大項目	小項目	全国における主な気候変動の影響	主な要因	重大性/確信度			緊急性/ 確信度	県内における主な気候変動の影響	現在の 影響	将来の 影響
					現状	1.5~2℃ 上昇時	3~4℃ 上昇時				
産業・経済活動	全般		災害による操業停止・被害額の増加 物流網やサプライチェーンの寸断	気温 降水量 降雪量	2 ***	3 **	3 **	3 ***	・災害による操業停止等のおそれ ・気候変動による物流網やサプライチェーンの寸断のおそれ	△	△
	製造業		企業の生産・販売過程等への影響	気温 降水量 降雪量	1 ***	2 *	3 *	2 *	・部品調達の停滞による工場の稼働停止等のおそれ ・労働者の熱中症リスク、原料の保管方法等への影響のおそれ	△	△
	食料品製造業		気温上昇による生産可能期間の短期化に伴う生産効率の悪化 製品品質の低下、生産コスト上昇等	気温	2 *	2 *	3 *	3 *	-	-	-
	エネルギー産業		夏季の電力供給ピークの先鋭化 水力発電量の減少	気温 降水量 降雪量	1 **	2 ***	2 ***	2 ***	・可能発電電力量の減少	○	○
	商業		季節性製品の売上げ、販売計画への影響 臨時休業や売上低下	気温 降水量 降雪量	1 **	3 *	3 *	2 *	-	-	△
	金融・保険業		保険損害・保険支払額の増加	降水量	1 ***	1 **	1 **	1 **	-	-	△
	観光業		スキー場での積雪深減少 観光快適度の低下	気温 降水量 降雪量	1 *	2 **	2 **	2 **	-	△	△
	建設業		熱中症搬送者・死者の増加 極端な気象現象による建築物の被害	気温 降水量 降雪量	2 ***	3 **	3 **	3 ***	・現場従事者の熱中症等の健康被害	○	○
	情報・通信業		水害による被害 基地局の停波・損傷、サービス低下	降水量	1 *	1 *	2 *	1 *	-	-	-
	運輸業		輸送貨物の停滞 連休の発生、貨物ダメージの増加	降水量	1 *	2 *	3 *	2 *	-	-	-
	不動産業		-	-	-	2 *	2 *	1 *	-	-	-
	サービス業		水害による被害	降水量	1 *	2 *	3 *	2 *	-	-	-
	医療・福祉・製薬業		停電と断水による診療活動・人工透析・手術の停止・延期 洪水による医療機関の浸水被害 道路寸断による緊急搬送や血液・医薬品の輸送等の阻害 異常高温による救急搬送量への影響	降水量	2 *	2 *	2 *	3 *	・断水や濁水が発生した場合、透析治療への影響のおそれ ・洪水による医療機関の浸水被害	○	○

国の影響評価

重大性

- 3：特に重大な影響が認められる
- 2：重大な影響が認められる
- 1：影響が認められる
- ：現状では評価できない

緊急性

確信度

- 3：特に高い ***：特に高い
- 2：高い **：高い
- 1：高くない *：高くない
- ：評価できない -：評価できない

県の影響評価

- ：大きい
- △：大きいとはえない
- ：ない、或いは、わからない

③ 県内における気候変動影響評価の実施

分野	項目		国影響評価(3次)					県影響評価		県3次評価	
	大項目	小項目	全国における主な気候変動の影響	主な要因	重大性/確信度			緊急性/ 確信度	県内における主な気候変動の影響	現在の 影響	将来の 影響
					現状	1.5~2℃ 上昇時	3~4℃ 上昇時				
国民生活・都市生活	健全な生活とその基盤	インフラ・ライフライン等	インフラ・ライフラインの被害 廃棄物処理システムへの影響 孤立集落の発生	降水量 降雪量	3 ***	3 ***	3 ***	3 ***	・停電による信号機の滅灯 ・倒木等による通行止め・交通環境への影響 ・上水場等の浸水による大規模な断水の発生 ・洪水等による廃棄物処理施設の稼働停止	○	○
		医療・福祉、教育	平時と同等の医療・介護・保育サービスが受けられないことへの影響 冷房をつけても教室内の暑さが解消できないことの影響	気温 降水量 降雪量	2 ***	2 *	2 *	3 ***	-	-	-
		住宅・住居	風水害による建築物被害 湿雪の増加や積雪期の降雨による重量増加による雪害	気温 降雪量	2 ***	3 ***	3 ***	3 ***	-	-	-
		レジャー・大規模イベント	サクラの開花時期の変化、紅葉の遅延、暖冬による積雪不足等、観光資源・祭行事への影響 大規模イベントにおける熱中症リスクへの懸念からの試合の延期、開催時期や場所の変更	気温	2 ***	2 ***	3 ***	3 ***	・大規模イベント（花火大会等）の開催時期や場所の変更	△	○
		災害避難	高齢者施設等における避難の遅延等	降水量 降雪量	2 ***	3 ***	3 ***	3 ***	・災害による高齢者施設等における避難の遅延のおそれ等	△	○
精神的な基盤	自然環境	身近なサクラ、イチヨウ、セミ、野鳥等の動植物の生物季節の変化 花粉媒介者の生物季節とのミスマッチが生じることによる自然受粉への影響	気温	1 **	1 *	1 *	1 *	・サクラの開花の早まり等 ・生物多様性と生態系のバランスの崩れ	-	○	
	文化・歴史	生物季節の変化による季節感や地域の伝統行事等への影響 気温上昇等による地域独自の伝統行事・地産産業等への影響 地域の文化や観光への影響	気温	1 **	1 *	1 *	1 *	・地域の文化や観光への影響	△	△	
	地域社会	避難によるコミュニティの変化や社会参画の機会の損失 交流の場やコミュニティから離れたことによる子育て負担の増加	降水量 降雪量	2 *	2 *	2 *	3 *	・コミュニティで行われていた活動の停止、ボランティア等の個人の社会参画の停止のおそれ	△	○	
世代間・世代内公平性	公平性・社会的弱者への配慮	災害により、高齢者の在宅生活が困難になることや、高齢者施設等における体調の悪化の増加 住宅が被災した子育て世代が地域ネットワーク・地域サービスの利用が困難になる等が原因による社会参画や雇用の機会の喪失	降水量 降雪量	2 ***	2 *	2 *	3 ***	・災害による高齢者施設における体調の悪化等のおそれ	△	○	
その他	暑熱による生活への影響等	熱中症警戒アラート発表による屋外活動への影響 都市部での熱ストレスの増大や屋外活動への影響等	気温	2 ***	3 **	3 **	3 ***	・熱中症警戒アラート発表による屋外活動への影響 ・部活動において熱中症の症状を訴える児童生徒の増加	○	○	

国の影響評価

重大性
 3：特に重大な影響が認められる
 2：重大な影響が認められる
 1：影響が認められる
 -：現状では評価できない

緊急性 **確信度**
 3：特に高い ***：特に高い
 2：高い **：高い
 1：高くない *：高くない
 -：評価できない -：評価できない

県の影響評価

○：大きい
 △：大きいとはえない
 -：ない、或いは、わからない